

# 帯笑園保存会 会報

発行元 保存会事務局  
発行責任者 鈴木 泰次  
2018年 2月 20日  
第8号

## 臨春亭・西蔵の耐震補強工事を実施

沼津市では、平成三十一年度に予定する帯笑園の一般公開に備え、本年度は臨春亭と西蔵の耐震補強工事を行っています。臨春亭については屋根を軽量のスチール製材料で葺き替え、壁を耐震性のボードに張りかえることが主で、屋根を除いては現状の外観が保全されることとなります。西蔵では、屋根と外壁の塗り替えが施工され、内部は天井



養生シートで覆われた中で工事が進められている。

井がはがされ、むき出しになった太い梁や桁と、塗り直された明るい漆喰壁との対比が強調されています。北側部分の中二階の一部と、その下にあつた仕切壁が取り払われたことにより、空間的な広がりを感じられます。床は木製のフローリング材が望ましいところですが、予算の制約があり、合成樹脂の材料とされてしまいました。

西蔵への出入りに関しては、車イスでも不自由がないようにしたいところですが、現在は入り口の踏込との段差があるため、三十年度に予



臨春亭内部の耐震補強工事は、壁を耐震壁に張り替えるのが主なもの



西蔵は、天井板、中二階の一部、仕切壁がなくなり広く感じられる

定される外構工事ではバリア・フリーに配慮した設計・施工がなされるよう、保存会として要望をしています。市では、耐震補強工事完了後は、臨春亭を琴や薩摩琵琶、尺八の演奏会、伝統園芸展示会などの本会がこれまで開催して来た催しのほか、茶会や茶道・華道教室、俳句・短歌会、手芸サークル活動などの開催の場として利活用が広められないかと、考えているようです。本会としても歴史のある臨春亭にふさわしいどんな利活用があるのか、会員の皆さんや地域の皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。皆さんからの提案やご意見・ご要望をお聞かせいただければ幸いです。皆さん次に、臨春亭の西側に建つ西蔵についてですが、市では西蔵の内部を一部改修してここを来園者に対するガイドダンス施設として利活用する考えです。二〇〇四年の浜名湖花博で帯笑園の紹介が行われた際

沼津朝日

2017年(平成29年)9月22日(金曜日)

第1935

帯笑園に歴史的遺物展示や紹介機能を

保存会が市長に要望書を提出

制作された展示パネルを大場豊重元市議が譲り受けたものを本会が引き継ぎ、これまでも二〇一二年に市立図書館で開催した『原宿と帯笑園展』や原コミ文化祭などで活用してきました。西蔵のガイダンス施設においてもこのNHKエンタープライズ制作のパネルに加え、『原宿と帯笑園展』の際に作成した大判のパネルを壁面に掲示して展示することになるものと考えられます。しかし、展示の基本は、国の登録文化財としての帯笑園についての理解を広め、顕彰するものではないかならぬと見られます。



帯笑園保存会から園整備についての要望書が大沼市長に提出された＝市役所特別応接室で

帯笑園保存会(鈴木泰次会長)は十九日、原地区の庭園「帯笑園」の整備に関する要望書を大沼明穂市長に提出。現在、市が実施している整備に合わせて庭園関連資料の展示スペースを園内に設置することなどを求めた。同園は東海道の宿場町として栄えた原宿の旧家植松家によって江戸時代後半に造営された。伝統的な和風庭園にとどまらず、植物園としての機能もあり、希少植物の栽培や品種改良も行われた。

このため、東海道を沿って来た大名や公家、文化人が同園を訪れた。こうした来訪者を対象に植物の頒布や交換も行われ、園芸を通じた文化交流の一大拠点としての役割も果たした。保存会は、地元自治会や有志によって構成され、園の見学や園内での季節の行事などを開催している。過去には佐野美術館の渡邊妙子館長の有識者による園利活用構想検討会を開き、その結果をまとめた提言書を二〇一四年一月に栗原裕康市長(当時)に提出している。今回の要望書は提言書に沿った内容で、戦災を受けず独特の景観が残る原地区で歴史や文化を学んだりウォーキングを

楽しんだりする際の拠点として帯笑園を位置付け、トイレや休憩施設の設定を求めている。また、帯笑園を造営した植松家には植物が豊富に残されており、園の存在と一体になった価値を有していることから、こうした

前市長から必ずしも理解が得られなかったことや、帯笑園一帯には民間施設を含めて公共的なトイレが無いことなどが伝えられた。一連の要望を受けた市長は、沼津御用邸に滞在した大正天皇が帯笑園を頻りに訪れたことなどを話し、同園に強い関心を抱いている様子を示した上で、「皆さんの熱意に接することができた。私も大事な文化振興課も前向きに考え出している。皆さんのアドバイスも得て有意義なプランにしていきたい」と述べた。

大沼市長は保存会メンバーと面会して要望書を受け取った。面会に際し側会からは、前回の提言書に対して

沼津朝日新聞から転載しました。

保存・整備と利活用についての要望書提出

本会では四年前、登録文化財である帯笑園にふさわしい「整備と利活用を構想する検討会」を立ち上げ、ここで取り纏めていただいた「構想提言書」を前市長に提出した経緯がありますが、実現していません。そこで、本会では、市が進める帯笑園の施設整備にこの提言を反映していただけるよう、一昨年来、担当部署である文化財センターと協議を重ねて来ました。

地元選出の四市議にもお力添えいただき、昨年九月十九日には歴史と文化を大切にしまちづくりを標榜する大沼市長に期待し、「帯笑園の保存・整備と利活用についての要望書」を提出しました。しかしながら、本会が要望した植松家に伝わる帯笑園に関する貴重な資料を展示する施設の設定については今回もご理解をいただけない結果となりました。わずかに、多目的広場に来園者のためのトイレを設置することについて理解が得られたに過ぎませんでした。

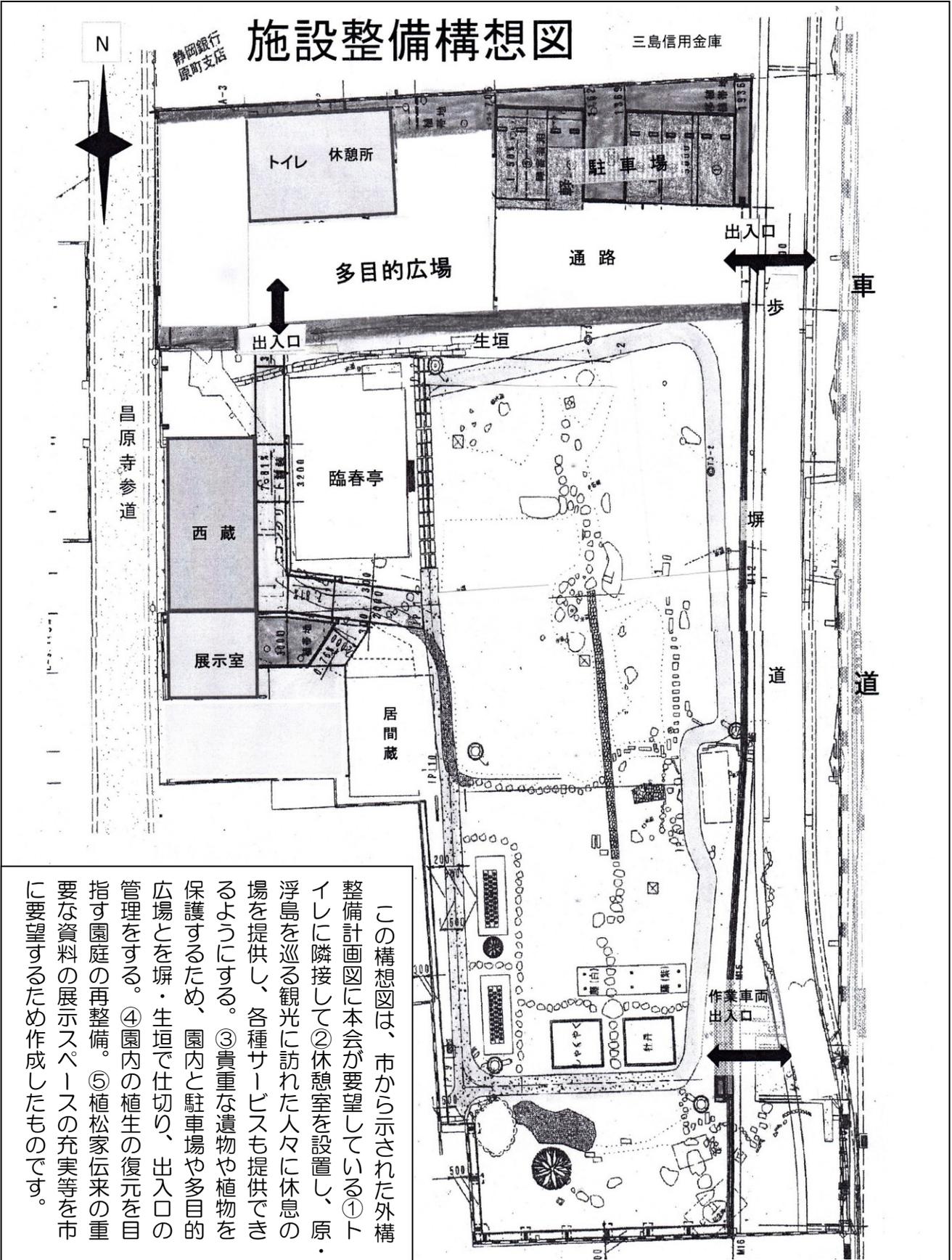
これはどうしたことでしょうか？原では、旧原宿時代と変わらぬ場所に松蔭寺、白隠産湯の井戸、徳源寺、昌原寺、西念寺、長興寺、清梵寺などの名刹があり、本陣跡、高札場跡などの旧跡が残り、浅間神社はじめ各社寺で年中行事が営まれています。本会では、地区の誇るべき歴史・文化資産を継承し、地域振興に活用することを提案しています。興国寺通りを経て浮島地区の自然や歴史遺産を訪ねる原・浮島地区の固有資源を一体として活用することが肝要で、帯笑園は地理的にもこうした取組みの要の位置にあるというのに。

帯笑園や地域についての情報発信が不足か？

この地域に暮らす人々が郷土の恵まれた資源の大切さに気づき、誇りに思う気持ちを育み、子や孫に伝えることが大事です。私たち帯笑園保存会を含めて、人々がこの地域の素晴らしさを情報発信する力が不足していたのか、また、帯笑園に対する理解と認識を広める努力が欠けていたのかと反省しているところです。

本会では、帯笑園の保存と利活用を図る上で、登録文化財にふさわしい施設構想を提案し、市に要望したところ。東側に設けられる歩道とは木製の塀で仕切られ、出入口から入ると右手に駐車場が、通路の奥にはトイレ、休憩所のある多目的広場が作られます。生垣で区切られた園内には一か所の出入口から入り、西蔵だけでは不足する展示スペースを補うため、南側に展示施設の増築が望まれます。しかし、本会が要望する整備構想のうち実現しそうなのはトイレのみという寂しい結果となりそうです。

## 施設整備構想図



この構想図は、市から示された外構整備計画図に本会が要望している①トイレに隣接して②休憩室を設置し、原・浮島を巡る観光に訪れた人々に休憩の場を提供し、各種サービスも提供できるようにする。③貴重な遺物や植物を保護するため、園内と駐車場や多目的広場とを塀・生垣で仕切り、出入口の管理をする。④園内の植生の復元を目指す園庭の再整備。⑤植松家伝来の重要な資料の展示スペースの充実等を市に要望するため作成したものです。

## 不老不死の仙薬 富士山浜梨とは？

本会が刊行した『帯笑園撮録』には、江戸末期に来園した大名や公家に植松與右衛門が浜梨の塩漬けをお茶請けに差し出したり、土産として献上したことが書かれています。弘化四年（一八四七）来園した井伊直亮（直弼の長兄で彦根藩第十二代当主）に、「不老不死の仙薬」と云われていると申し上げると殊の外お喜びになったとの記述があります。『撮録』には、ほかにも何度も富士浜梨が登場します。津和野藩主の亀井茲監のように浜梨の木を所望した大名もありました。

不老不死の仙薬、浜梨とは何か？気にかかり調べてみるとハマナスの实のことという記述があったりしましたが、確信が得られないでいたところ、富士宮市在住の市川和秀会員から上の写真が送られ、低木の高山植物「コケモモ」のことで



あると教えていただきました。小さな赤い実にビタミンCが豊富に含まれ、旅の疲れが癒されたものと思われれます。不老不死の仙薬との言い伝えもこういうところ

ろに由来しているのでしょうか。富士山の五合目の標高二千四百メートルあたりに群生していますが、採取は原則として禁じられているとのこと。

実は甘酸っぱく、塩漬けやジャム、果実酒などにして味わうことが多いようですが、富士宮市などでは、季節限定で朝市に並んだり、コケモモを材料にした菓子を販売するお店もあるそうです。

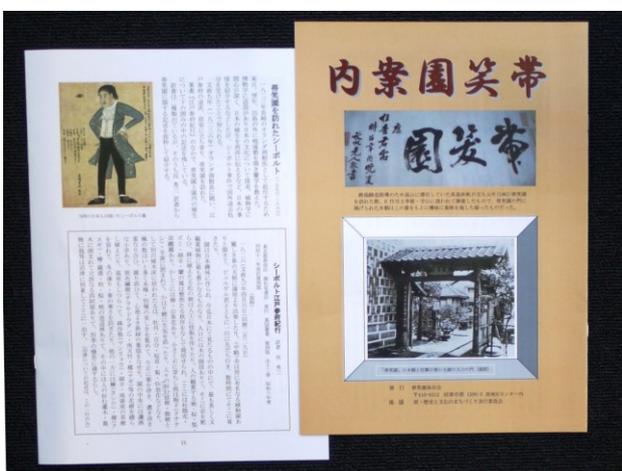
## 西部浄化センターでサクラソウを育てる

NPO法人浮島沼自然・里づくりの会では、数年前から西部浄化センター遊水地で浮島ヶ原在来種のサクラソウの復活に取り組んでいます。昨年の秋から、エコネット沼津などの協力を募り、苗畑の拡張整備を進め、湧水を活かしてミズバショウなどの栽培にもチャレンジしています。「桜草を愛でる会」が計画されていますので、出掛けてみましょう。

◇四月七日（土） 九時三十分～一三時三十分 雨天の場合は翌日に順延。



サクラソウ、ミズバショウなどの復活を期待して



原・歴史と文化のまちづくり実行委員会のご支援により『帯笑園案内』を刷新しました。A四判一二頁のカラー刷冊子が出来上りしました。カラー印刷にあたり構成や内容を一部改めました。見学会の折に頒布し、登録文化財帯笑園の歴史的・文化的意義に理解を深めていただいておりますが、様々な機会に活用していきたくないと考えていますので、お声を掛けていただければ幸いです。